

岩石類の多次元エネルギー・エネルギー強度 と磁気共鳴分析MRAとの関係 —その1. 堆積岩類—

満塩大洗* · 島村不二夫**

*高知大学理学部地学教室 · **株式会社 シマムラ

Relations among Multi-Dimension Energy, Material Energy Intensity,
and Values by Magnetic Resonance Analyzer on Several Rocks
--Part 1, Sedimentary Rocks--

Taikou H. MITUSIO* and Fujio SHIMAMURA**

*Department of Geology, Faculty of Science, Kochi University

**Shimamura Company LTD, Wakayama.

Abstract

The invisible energy intensity such as the Multi-Dimension Energy, DE and Material Energy Intensity, EI of several sedimentary rocks of various geologic ages was measured by Extra-Sensory Organ. And also such values as immunity, stress, cancer, and balance of the positive and negative were analyzed by the Magnetic Resonance Analyzer, MRA.

Consequently, the energy intensity of DE, EI and MRA values of limestone and chart, bioclastic rocks, are higher than ordinary clastic rocks.

1. はじめに

我々の周辺では、自然環境として岩石や鉱物、さらに、植物・動物などがみられる。これらは地球の層状構造として、上部から気圏・水圏・岩石圏があり、特殊な圏として生物圏がある。そして、筆者らは環境変動の長年にわたって、これら4圏の相互作用を解明してきた(例えば、満塩, 1994; Mitusio & Furukawa, 1995など)¹⁾²⁾。また、多次元エネルギー Multi-Dimension Energy, DE, 及び、岩石圏・水圏の物質エネルギーの強度 Material Energy Intensity, EIなどの計測も行ってきた。

いっぽう、磁気共鳴分析器 Magnetic Resonance Analyzer, MRA³⁻⁶⁾は、R. J. ウェインストン氏の発明で、日本には江本勝氏により、波動分析器として紹介された。これは全てのものが磁氣的に固有の情報を持っており、それらを4桁のコード化した信号として、MRAから送ることによって、その測定物とオペレーターの共鳴か非共鳴の度合を調べるのである。その測定値は+21から-21までの数値で示される。これには約3千項目にわたるコードがある。そして、最近ではオーリングテストと同様に、かなり一般性を持って測定され、注目されている機械である。

表1. 地質時代と堆積岩類のサンプル表

| 地質年代 | | | 地 層 | 岩 質 |
|-------------|-------------|-------|----------|----------|
| 新 生 代 | 第 四 紀 | 完新世 | ----- | ----- |
| | | 更新世 | 和食層/奈半利層 | 礫岩/砂岩 |
| | 第 三 紀 | 鮮新世 | 穴内層/登層 | 砂岩/泥岩 |
| | | 中新世 | ----- | ----- |
| | | 漸新世 | 大山岬層 | 礫岩 |
| | | 始新世 | 奈半利川層 | 砂岩 |
| | | 暁新世 | 室戸層 | 砂岩/泥岩 |
| | 中 生 代 | 白亜紀 | 領石層/和泉層群 | 砂岩/泥岩 |
| | | ジュラ紀 | 鳥ノ巣層 | 石灰岩/泥岩 |
| | | 三畳紀 | 三宝山層群 | 石灰岩/チャート |
| 古 生 代 | ペルム紀 | 白木谷層群 | 石灰岩/チャート | |
| | 石炭紀 | ----- | ----- | |
| | デボン紀 | ----- | ----- | |
| | シルル紀 | ----- | ----- | |
| | オルドビス紀 | ----- | ----- | |
| | カンブリア紀 | ----- | ----- | |
| 先カンブリア紀 | | ----- | ----- | |

-----印は無し

今回はこれらのコードの内から、人間の健康と直接重要な関係があると考えられる4つのコード、すなわち、免疫・ストレス・ガン・陰陽のバランスについて測定を行った。

また、測定サンプルは、岩石圏を構成している、火成岩類・変成岩類・堆積岩類を測定したが、ここではページの関係から、各地質時代の各種の堆積岩類に限って、RE・DE・MRAについて述べる。

2. 方法

DEとRIとは、ルドルフ・シュタイナーが指摘する「超感覚器官」によるものであり、これらは通常の感覚の5感と「考えたり、感じたりする」第6感とを「超えた」という意味であり、いわば第7感とも言えるものである⁷⁾。岩石類ではこれまでの多数の計測結果から、DEは7が最高値であり、Eは1から10段階で測定している。また、MRAは島村が操作した。

これらによって、表1の各地質時代の各種の堆積岩類を採集して測定した。

3. 結果及び考察

以上の岩石類について測定した結果は表2に示す。

表2. 堆積岩類の次元エネルギーとMRAの関係

| No. | 地層 | 岩種 | DE | E | 免疫 | ストレス | ガン | バランス |
|-----|-------|-------|----|---|-----|------|-----|------|
| 1 | 和食層 | 砂岩 | 3 | 4 | -9 | -10 | -8 | -9 |
| 2 | 同上 | 礫岩 | 3 | 3 | -12 | -13 | +6 | -8 |
| 3 | 奈半利層 | 泥岩 | 3 | 3 | -6 | -4 | -6 | -9 |
| 4 | 穴内層 | 砂岩 | 3 | 2 | -6 | -8 | -8 | -5 |
| 5 | 登層 | 泥岩 | 3 | 3 | -6 | -5 | -7 | -8 |
| 6 | 同上風化 | 泥岩 | 3 | 3 | -11 | -7 | -9 | -7 |
| 7 | 大山岬層 | 礫岩 | 3 | 4 | -11 | -11 | -8 | -11 |
| 8 | 奈半利川層 | 砂岩 | 3 | 4 | -4 | -5 | -6 | -6 |
| 9 | 室戸層 | 泥岩 | 3 | 4 | +12 | -3 | +8 | -8 |
| 10 | 領石層 | 礫岩 | 3 | 4 | +15 | +16 | +16 | +13 |
| 11 | 和泉層群 | 砂岩 | 3 | 4 | -2 | -6 | -4 | -6 |
| 12 | 同上 | 頁岩 | 3 | 4 | -3 | -3 | -4 | -4 |
| 13 | 四万十層群 | 砂岩 | 3 | 4 | +21 | +21 | +21 | +21 |
| 14 | 同上 | 頁岩 | 3 | 4 | -21 | -21 | -21 | -21 |
| 15 | 同上 | 赤チャート | 3 | 4 | -7 | -9 | -4 | -8 |

表2. 堆積岩類の次元エネルギーとMRAの関係(続)

| No. | 地層 | 岩種 | DE | E | 免疫 | ストレス | ガン | バランス |
|-----|-----------|-------|----|---|-----|------|-----|------|
| 16 | 古生層 | 石灰岩 | 3 | 8 | +18 | +19 | +18 | +18 |
| 17 | 同上 | 灰チャート | 3 | 8 | +21 | +21 | +21 | +21 |
| 18 | 同上 | 砂岩 | 3 | 4 | -8 | -13 | -10 | -14 |
| 19 | 同上 | 頁岩 | 3 | 4 | -7 | -6 | -9 | -10 |
| 20 | 隠岐ケイウ土 | | 4 | 7 | +13 | +17 | +21 | +13 |
| 21 | エジプト石灰岩 | | 4 | 6 | +12 | +7 | +11 | +12 |
| 22 | エジプトナノ石灰岩 | | 4 | 6 | +5 | -4 | +11 | +4 |

堆積岩類のDEについては大多数は3であり、Eは10段階の内、3や4が多い。しかし、石灰岩やチャートは8の最高値を示している。これは堆積岩類の成因による分類では5種類あって、その内の生物源の石灰岩やチャートが最高値を示している。その他は碎屑岩類の礫岩・砂岩・泥岩であり、これらはいずれも低い値である。また、MRAの値についてはバラツキが大きい。前述したEの大きい生物源の石灰岩・チャートが大きな値を示している。ただし、四万十層群の砂岩は最高値であるが、頁岩は最低値である。

4. おわりに

以上には、各種のそれぞれの地質時代の堆積岩類のDE・E及びMRAについて測定した結果について述べた。他の岩石類・鉱物類・化石類、更には、植物類なども計測しているが、別の機会に報告する。これらを通じて、自然環境の改善や人類の健康の改善にも役たてたいと希望している。

終わりに、種々ご協力いただいている人間・環境変動研究会の安保雄次会長をはじめとする会員の諸氏に深謝の意を表します。

引用文献

- 1) 満塩大洗. 1994. 岩石圏と水圏の相互作用, その10, 特殊な水, α ウオターと ω ウオター-添加によるコンクリート強度変化. ウェイストリソース, (29):29-36.
- 2) Mitsuio, T. and Furukawa, H. 1955. Interaction between Lithosphere and Hydrosphere, Part 11-Excavation of a new hot spring near Kurokawa, Oguni-Cho, Aso-Gun, Kumamoto Prefecture-. Mem. Fac. Sci. Kochi University, Ser. E, Geology, 16:45-58.
- 3) 江本 勝. 1992. 共鳴磁場水の概略とその応用. 新しい水の科学と利用技術, 208-213.
- 4) 江本 勝. 1992. 波動時代への序幕. 1-208.
- 5) 江本 勝. 1995. 波動革命. 1-240.
- 6) 萩原弘道. 1993. 免疫力を上げる生活. 1-314.
- 7) 満塩大洗. 1995. 多次元科学への招待. I. 1-38.